

大学院国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻 修士課程

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

国際芸術創造研究科では、グローバル化に対応して、美術、音楽、映像等、さまざまな芸術ジャンルを複眼的な視点で捉え、公演や展覧会等を通じて表現者たちの発表活動の場を創出するキュレーターやプロデューサーを輩出することを目指しています。また、さまざまな文化活動の社会的・文化的諸相を分析する研究者や、そうした研究を通じて文化政策に提言・実践をおこなう専門家の育成も目指しています。

芸術文化の専門機関、教育研究機関および企業・行政等における高度な専門人材の養成を図るため、専攻において定められた単位数の取得と、修士論文等による学位審査に合格した者に修士の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー（カリキュラム編成の方針、教育・学習方法の方針、学習成果の評価の方針）

「理論と実践の往還」を教育理念とし、基礎や応用理論を学ぶ概論や特論、実践的な活動をベースとした演習に加え、国内外の先端的な理論家や実践者との交流授業を通じて、国際的な視点やネットワーク形成の方途を習得することが求められます。

こうした授業および指導教員による研究指導を通じて、実際に文化事業を構想・実現することを習得しつつ、同時に世界各国の文化事業の背景にあるさまざまな文化・社会状況や、文化政策や文化経済学等、芸術と社会の関係を支える諸理論を学びます。

各科目の評価については、東京藝術大学成績評価に関する申合せによる評価基準のもと、各科目の特性に従ってシラバスに記載している方法によって公正に評価を行います。学位論文の評価にあたっては、専門性、独創性及び論理性を中核としつつ、(1)芸術諸分野を横断的に貫く視点を有しているか、(2)国際的な視野を有しているか、(3)実践的な裏付けや実践への展開の展望を有しているか、を重要な基準として評価します。学位論文に併せて実践的課題に係る特定課題研究研究報告書の提出が課されている者に関しては、学位論文と成果報告書を一体のものとして位置づけて評価を行います。

アドミッション・ポリシー（求める入学者像および入学選抜試験の方針）

芸術文化と社会の関係構築を担う役割に対する強い信念を抱き、伝統と革新を切り結ぶ柔軟な発想力と行動力を有する人材を求めています。また、教育理念の実現に向けて、理論化に必要な言語的資質および実践活動に必要な思考力とコミュニケーション能力も問われます。さらに、国際交流カリキュラムに対応できる語学能力も評価されます。そのために入学者選抜試験では、本研究科が実施する面接及び志願者から提出された書類（成績証明書、研究計画書、志望理由書、論考、推薦書、語学能力証明書）を総合して判定します。

カリキュラム構成

授業は、基礎理論を講義形式で学ぶ「基礎科目」と、実践的なゼミやリサーチ活動を行う「実践科目」を中心に構成されます。

また、「芸術文化批評方法論」「アジア文化研究」などの一般科目も開講されています。その他、本学内で開設されている「美学」「音楽文化史」「著作権概論」「芸術と情報」などの他学部・他研究科開設科目の受講も可能です。これらに加え、指導教員による研究指導が行われます。

教育目標				
①国際的に活躍できる人材の養成				
②芸術領域における横断的で幅広い知識の修得				
③高度な専門的知識の修得				
④高度な実践力の修得				
年次	科目群	科目名	教育目標	
1年次	基礎科目群	アートプロデュース概論	①③	
1年次	基礎科目群	グローバル時代の芸術文化概論	①②③	
2年次	基礎科目群	アートプロデュース特論	①③	
1年次	実践科目群	アートプロデュース演習	①③④	
2年次	実践科目群	アートプロデュース特別演習	①③④	
1,2年次	実践科目群	アートプロデュース総合実習	①④	
1,2年次	基礎/実践科目群	芸術文化批評方法論, 他研究科開設科目等	①②	
区分	1年次		2年次	
	前期	後期	前期	後期
基礎科目群	アートプロデュース概論		アートプロデュース特論	
	グローバル時代の芸術文化概論			
実践科目群	芸術文化批評方法論, アジア文化研究, 文献購読演習, グローバルアート批評理論 キュレトリアル&アートセラー研究, キュレトリアル実践演習, 研究方法論, アカデミックライティング アジア実演芸術マネジメント研究 他学部・他研究科開設科目設科目(美学, 音楽文化史, 著作権概論, 芸術と情報)			
	アートプロデュース演習		アートプロデュース特別演習	
	アートプロデュース総合実習			
	指導教員による研究指導			
研究指導	指導教員による研究指導			
修得単位数	30			